

## 編集後記

雑誌名	日本文学誌要
巻	60
ページ	132-132
発行年	1999-07-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00020085">http://hdl.handle.net/10114/00020085</a>

# 編集後記

★ 「誌要」複刊第六十号をお届けします。

「米国の軍事行動への白紙委任状」と言われる重大な、危険な新しい日米防衛協力のための指針（ガイドライン）関連法案が成立した。戦争や武力衝突と言わずに「周辺事態」などという茫漠とした漢字言葉で物事を胡魔化す狡猾なやり方で、国民の大部分を置き去りにして進められた。米軍にお任せ状態で、日米安保条約を一步踏み出し、戦争に巻き込まれる危険性は極めて深刻である。対米従属が強まれば、アジアでの日本の孤立は免れない。「日の丸・君が代」の強制化が論議されている。「軍国日本」に戻らないという保証は全く無い。「戦争放棄」を宣言して半世紀余、憲法との矛盾は増すばかりであります。

編集会議の語らいの中で、戦前の国文学者の抵抗の砦とも言われた「誌要」の歴史と、かつて安保闘争に明け暮れた日々に想いを馳せ、果して今、主権国家としての日本にあつて、文学研究は一体どのようなべきなのだろうか、問わなければならぬ状況にあるのではないかという提言がありました。が、論議をする暇がなかったのが

残念です。

★ 本号は恒例となつた卒業論文特集号ということで、先生方から優れた論文を推薦頂きました。「誌要」が若い研究者の優れた論考で充たされることは望ましく喜ばしいこととあります。また、国文学会の水準を示す先生方の寄稿も頂きました。さらに会員研究者の論考、随想、展望、書評等、揃えることが出来ました。多忙の中での協力有難うございました。

前号からの連載企画「法政今昔」は、正木信一先生にお願いしました。標題の如く「わだつみ世代」の貴重な経験を、体調を押してのご執筆、感謝の申し上げます。

★ 今回『そとより通信』はありません。合冊の発行形態は今後の課題と思います。次号六十一号は田中単之先生の担当となります。一〇八頁の「寄稿要項」をご覧ください。

（大越 嘉七）

一九九九年七月十日 発行		日本文学誌要 第六〇号	
編集部 坂本 勝		萩原 一雄	
大越 嘉七		田中 単之	
杉本 圭三郎		発行人	
東京都千代田区富士見二ノ		発行所	
十七ノ一法政大学八十年館		電話〇三（3264）九七五二	
法政大学国文学会		口座番号〇〇一六〇一七六九四三	
印刷所 ニチデン		電話〇四二（三九五）三七〇一	